特集　戦後70年目を迎えて

「つなぐ」

「戦争を二度と繰り返してはならない」
先人たちが現在の私たちへ残してくれた教訓であり、
私たちが後世に伝えなければならない言葉です。
では、なぜ戦争をしてはいけないのか。なぜ伝えていかなければならないのか。
戦後70年の節目に改めて、考えてみませんか。

戦争と笠間

一九三一年（昭和6）の満州事変から約十五年間続いた戦争で、住民の生活は大きな影響を受けました。

「食糧の絶対確保が必勝の鍵」として、政府から米を差し出すことを強く求められ、農村からも出兵が増えたことによる労働力不足により、まちは食糧難となりました。当時の人々はドングリやサツマイモなど、代用品の確保に努めていたといいます。戦況が悪化すると、「少しでも国民みんなでお金を出して武器に充てよう」という動きから、住民の生活はさらに切り詰められました。特に農村部では一九二九年（昭和4）の世界大恐慌の影響を受けていたこともあり、この頃は飢えによって亡くなった方も少なくありませんでした。

一九四二年（昭和17）にいよいよ本土への空襲が始まると、何万人もの子どもたちが避難のため、地方へ疎開してきました。「上を向いて歩こう」でお馴染みの坂本九さんもこの時期、佐白山にある親戚の家に疎開していました。

一九四五年（昭和20）八月十五日に終戦を迎えたものの、住民の落胆と不安はとても大きいものでした。

筑波海軍航空隊

一九三四年（昭和9）、航空機操縦要員の教育を担当した、霞ヶ浦海軍航空隊の分遣隊として旧友部町に設置され、四年後には筑波海軍航空隊として独立しました。下宿先として海軍兵を預かる家庭も多く、住民にとって筑波海軍航空隊は身近な存在でした。

一九四一年（昭和16）ハワ

後世へつなぐ

笠間市戦没者追悼式

資料展

終戦70年 笠間市と太平洋戦争

期　間／～9月30日（水）
　　※月曜日休館
時　間／午前9時～午後5時15分
場　所／友部公民館　1階ロビー
内　容／笠間市域の戦没者、筑波海軍航空隊、学童疎開など
問合せ／友部公民館 TEL0296-77-7533

裏千家前家元 千玄室大宗匠による慰霊献茶式
（平成27年3月）

筑波海軍航空隊の慰霊碑

イの真珠湾攻撃を皮切りに始まった太平洋戦争により、戦況は激化。多くの海軍飛行予科練習生出身の隊員が筑波海軍航空隊に入隊し、「鬼の筑波」と恐れられた猛特訓に励みました。

さらに戦争が厳しくなった一九四四年（昭和19）から、零式艦上戦闘機（零戦）が配備され、実践部隊となりました。二〇一三年（平成25）十二月に全国公開された映画「永遠の0（ゼロ）」で主人公が搭乗していたのがこの戦闘機です。

一九四五年（昭和20）二月には、アメリカ艦載機グラマンの襲撃があり、筑波海軍航空隊から零戦・紫電が迎撃。空中戦が展開され、二十三名が戦死しました。

〔参考文献〕
『友部町史』（一九九〇）
『笠間市史』（一九九八）
『岩間町史』（二〇〇二）

◀神風特攻隊員として筑波基地を離れる海軍飛行予科練習生

若くして散った尊い命

15年戦争※の戦没者

旧笠間市　961人
旧友部町　427人
旧岩間町　359人

※満州事変から太平洋戦争までの期間

日本最大級の戦争遺構「筑波海軍航空隊記念館」

一時は取り壊しが検討されたこの場所を、開館から1年半で10万人以上が訪れる施設へと導いた、筑波海軍航空隊プロジェクト実行委員会事務局の金澤さんにその歴史的価値について伺いました。

いろいろな視点で歴史をみて

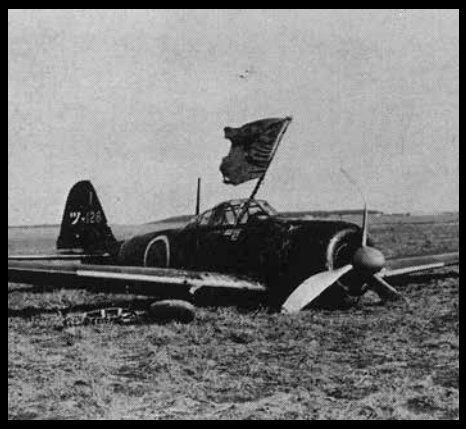
2つの歴史的価値

海軍の司令部で敷地全体の見学ができる場所は全国でも稀だと思います。庁舎や地下戦闘指揮所、号令台など、ほとんどのものが当時のまま残っていますので、戦時中の雰囲気を肌で感じることができる貴重な場所です。

また、筑波海軍航空隊の司令部庁舎で、特攻の先駆けとなる部隊を組むかどうかという重要な決定が下された可能性があります。当時の方が書きためた資料を見ると、特攻が行われる数か月前に、指令部庁舎の一階士官室に若い教官たちが集められ、「誘導ミサイルのパイロットに志願するか」との話がされて、数人がそれに応えたとの記述があります。この諮問が、運用を検討されていた特攻兵器「桜花」を使用するに至ったきっかけ

筑波海軍航空隊記念館 館長
金澤（かなざわ）　大介（だいすけ）さん

ギャラリーを笠間市に開いたことがきっかけで筑波海軍航空隊プロジェクト実行委員会に加わる。映画「HAZAN」製作にかかわった経験などを活かし、記念館の管理・運営を行っている。



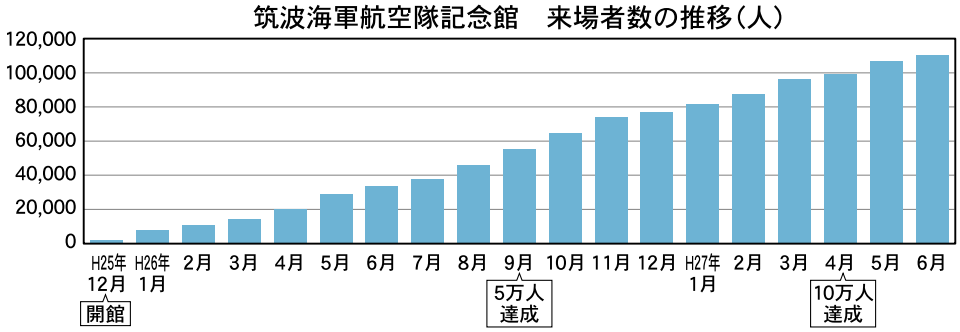
筑波海軍航空隊記念館 企画展

終戦70年 戦争を語り継ぐ活動軌跡展

近年解散した遺族会や今後終了となる慰霊祭にスポットを当てた企画展です。各団体の皆さんが、どのような70年を過ごし、どのように戦争を語り継いできたのか。その軌跡を紹介します。

8月1日（土）～8月31日（日）
午前9時～午後5時（最終入場：午後4時）

【問合せ　筑波海軍航空隊記念館】



◀「提供された資料は、すぐにでもたくさんの人に見てほしい」という感謝の気持ちで展示物を頻繁に入れ替えたことで、何度も足を運ぶ方が増えたとのこと。多い方では4回以上来館されています。

だと考えられるのです。まだ検証されてはいませんが、世界的に知られている特攻の歴史に笠間市が深く関係しているということは、記念館の歴史的価値を大きく高めると思います。

歴史を知る足がかりに

すでに「辛く悲しいもの」として知られている戦争の歴史を深く知ることは、とても抵抗があると思います。しかし記念館は、映画「永遠の0（ゼロ）」で脚光を浴びたこともあり、ゲームや映画で戦争に興味を持った方も来館しています。そうした方たちと本来の歴史は少し距離があると思うので、記念館で当時の資料を見て、真実を知りたいと思ってもらえるきっかけになればと考えています。

戦争を知らない子どもたちへ

子どもたちに伝えたいのは、「いろんな視点を持ってほしい」ということ。戦争は、国と国が自分たちの国民を守ろうという気持ちから始まったものだけれど、個人の視点から考えてみると、大切な人が傷ついたり、誰かを傷つけたりしなくてはならなくて、いいことなんて一つもない。大きな視点、小さな視点、いろいろな視点があるということを認識したうえで、戦争の事実を知ってもらえれば、「戦争はいけない」ということが、戦争を知らない世代にも伝わるのではないかと思います。

平和とは

自分の視点や主張を選ぶことのできる選択肢があることだと思います。

筑波海軍航空隊記念館
笠間市旭町654
（茨城県立こころの医療センター内）
TEL 0296-73-5777

今の私たちにできること

歴史は年月を経るごとに風化していきます。教科書には載っていないその時代を生きた人々の想いは、これから生まれてくる子どもたちが戦争の悲しさやむなしさを理解する大切な材料です。

後世で生きる人が平和であるよう、バトンのように教訓と記憶をつないでいくことが私たちの役割なのかもしれません。

特集　戦後70年目を迎えて「つなぐ」（完）